

あっぷるかわら版

5月号



あっぷるからの言の葉

桜の季節が一瞬で過ぎ去り連日初夏の様子を帯びて来ました。いつもあっぷるをご利用いただきありがとうございます。お弁当やスイーツ、ランチが販売された収益は全て工賃として彼らのお給料に還元されてゆきます。言い換えるとたくさん売れるとお給料が上がるという福祉のルールに基づいてのものです。工賃は多い人で月額七万円程度、少ない人であれば一万円程度しかないのです。まだまだ障害者が働くというのはそんな脆弱なかにあるのです。

京都にいた若き日、幾度か出会う機会があった福井達雨氏の言葉を久しぶりに眺めてみました。有事に向かい行く時勢の中「社会的弱者」と呼ばれる人達の存在が、巧妙に捨てられゆく傾斜が増して行こうとします。「歴史」は繰り返します。社会保障が右肩下がりとなり、障害年金申請や受給が困難さを増しています。「命」を守る社会のセーフティーネットはほころび始め、日本国憲法第25条が言う「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」さえ危うく風に舞う様な時勢が進み行きます。今為すべきを、考えるべきことを見つめて行きたいと思います。

福井達雨の言葉「人権やサービス、正義を語る言葉は大嫌いや。人権と叫べば叫ぶほど、それは切り捨てられてしまう。正しいことを言っていたら、弱い人たちの命は消えてしまう。電車で学生が席にすわったんで注意したんや。でも、その学生は僕にも座る権利があるのに何で譲らなきゃいけないんだと言っていた。多数派の論理で、少数派の人たちのことをこれっぽっちも考えていない。愛が無い言葉や。」「サービス言うのは利益を出せ、お金を儲けるという言葉やない。福祉は企業と違う。赤字になるのが福祉や。足りない分は政府が補完すればいい。強い側にいるとな、生きることがしんどいねん。でもな、弱い側にいると、生きることが楽やねん。弱いことが素敵。明るくなったってよく言われるんよ。昔はこうしろ、あーしろとバーっと言うのとった。福井先生怖い言われとった。けどな、今は昔よりみんなの声が聞こえてくる気がするな。人間は高慢や。だから謙虚にならなアカん。降りていって一緒にいるいうことや。上るのは高慢。

理事長 山下 安寿

あっぷるメンバーからの言の葉

あっぷるを利用している人(メンバー)からの言葉を添えます。()内はペンネームです

・病気になって、諦めたことや、失った物もたくさんあったけど、私にとってあっぷるに出会えたことは、とても大きかったと思います。病気になってしまった時は、「私の人生狂った」とか、悲観的になっていた時もあったけど、今思えば、それがきっかけで、気付かされたことや考えさせられた事もあったし、なにより人生の勉強になりました。あっぷるに入る前は、私は病気のことは、はっきり言って諦めていました。薬もたぶん一生飲み続けなければいけないのだろうと思っていました。だから、あっぷるに入って、とても元気になって、どんどん薬の量が減っていった時は、本当に信じられない様な気持ちでした。

あっぷるは、訪れた人みんなが大好きになる様な、不思議な魅力のある場所です。あっぷるに入りたての頃は、「こんな場所があるのか、もっと早くあっぷるに出会っていればよかった」と思ったくらいです。あっぷるに入ってから自信もついたり、周りのみんなからも「変わったね」とよく言われます。お弁当の盛り付けが上手くできたり、ロールケーキが上手く焼ける事よりも、あっぷるのみんなを応援して下さる人たちへの感謝の気持ちや、周りの人への思いやりなど、他の職場では教えてくれない、人が生きていく上で大切なことをあっぷるでは教えてくれます。そんなあっぷるの方針が、私にはぴったりだった様に思います。

あっぷるは、一人一人が成長できる温かくて最高の場所です。

ここ南庄町では、2年目ですがこれからもあっぷるを宜しくお願い致します。(スイーツ担当A・I)

・はじめまして。私は今年、他の就労継続支援B型事業所からあっぷるへやって来ました。やさしく、明るいメンバーさん達と、協力して、あっぷるのお弁当を作りながら、少しずつ元気を取り戻しているところです。お客様やスタッフの皆さんに支えられ、新しい「あっぷる」という場所で、一歩ずつ成長していけたらと思います。(H・T)

・私はあっぷるに入ってから17年になります。最初入りたての頃、水もは運べられなかったし、笑顔もありませんでした。なぜ、私が笑顔になれたかと言ったら、当時私にいろいろ教えてくれたメンバーさんの存在でした。その方は私にとっては、お母さんみたいな方でした。その方のおかげで今の私があります。(Y・K)



今

回、かわら版でご挨拶ができますこと大変嬉しい思いです。ご存知の方も、初めましての方も「ハートランドあっふる」と申します。今から24年前に障害者が働く弁当屋として北島田の町でスタートしました。当時のあっふるを知る人は今では理事長と数名のメンバーとこの私、二階に上がるのが縄ばしごだった、というのがこの北島田の物件でした。その時の合言葉が「明日地球が終わるわけではないから大丈夫!」何も無くても「想い」はどんどん膨れるばかり、見よう見まねの弁当屋でも、自分たちの場所が誕生した瞬間でした。あれから24年、お弁当に付いている「弁当の帯」はそのままだ、この南庄町での新しい出会いに、感謝の想いです。コロナを封じて日常を取り戻す、願いを胸に弁当にスイーツ、皆の笑顔を変わず届けてゆけたらと思います。次回かわら版もどうぞお楽しみに。 スタッフ 阿部 千恵



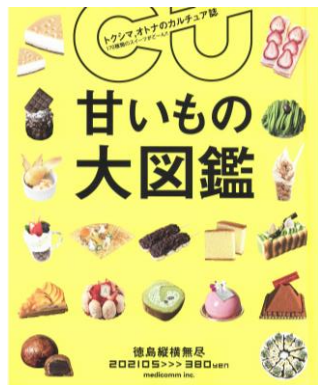
就労継続支援B型事業所ってなんなの？

障

害福祉サービス事業所「あっふる」は障害者総合支援法に基づき、就労継続支援B型事業所として活動しております。初めてお聞きになる方も多いと思いますので、少しだけ、就労継続支援B型事業所や、福祉サービスについてお話します。そもそも福祉サービスとは、個々の障害のある人々の障害程度や勘案すべき事項（社会活動や介護者、居住等の状況）を踏まえ、個別に支給決定が行われる「障害福祉サービス」と、市町村の創意工夫により、利用者の方々の状況に応じて柔軟に実施できる「地域生活支援事業」に大別されます。「障害福祉サービス」は、介護の支援を受ける場合には「介護給付」、訓練等の支援を受ける場合は「訓練等給付」に位置付けられ、就労継続支援B型事業は、「訓練等給付」に位置します。就労継続支援B型事業所とは、通常の事業所に雇用されることが困難であり、雇用契約に基づく就労が困難である者に対して、就労の機会の提供及び生産活動の機会の提供 その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行うと、されています。すこし堅い文章になりましたね。あっふるでは、弁当製造や、販売、スイーツの製造や販売が、生産活動の機会となっています。そして、生産活動で生まれた純利益がすべて、利用者の給料（工賃）として支払われる仕組みとなっています。記念すべき一回目のお堅い話はこれで止めておきます。また、次回以降で、その他の福祉サービスのお話や、先ほど少し出てきた、工賃のお話、福祉の話をしていこうと思います。 精神保健福祉士 山下 千里

徳島情報雑誌「CU5月号」にスイーツが掲載!!

徳島情報雑誌「CU5月号」にあっふるスイーツ工房の商品と、あっふる餡子が2ページに渡り、掲載してくれています。雑誌をお見かけの際は是非、ご覧下さい



日 替わりお弁当 1個 450円

手作りにこだわり、みんなで作ったお弁当です。無くなり次第終了となりますので、予約等のご注文も1個から可能です。

月に一度の5のつく日は

55ランチ (ドリンク付き)

毎月一度、5のつく日はランチが700円(税込)がなんと、550円(税込み)になるお得な日となっています。

5月は5月15日(土)です。お楽しみに。



街の中の喫茶店あっふる・あっふるスイーツ工房
営業日 水・木・金・土 (休業日 月・火・日・祝)

※ 祝日営業はお知らせします。

営業時間 11:00~15:00

ランチ 11:30~15:00 無くなり次第終了

Tel : 088-679-8225 予約可能



社会福祉法人ハートランド
ホームページQR

